

国立成育医療研究センターも PGT-A多施設共同研究に参加しています

①「PGT-A」とは・・・

PGT-A(Preimplantation Genetic Testing for Aneuploidy)とは、「着床前胚染色体異数性検査」と言い、胚移植前の胚から数個の細胞を採取し、染色体の数を調べる検査です。染色体に異常のない胚を選んで移植することで、妊娠率の上昇、流産率の低下を目的としています。



実際の胚生検の様子

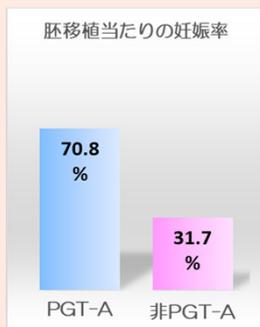
②「PGT-A」は、臨床研究です

日本産科婦人科学会で行われたPGT-Aの事前研究では、「**移植当たりの妊娠率**」がPGT-Aをしていない群に比べて、**PGT-Aを行った群で高い**ことが明らかになりました。一方、移植できない患者さんもいるため、流産率や患者さんひとりひとりの妊娠成功率が改善されるかは明らかになりませんでした。

現在行われている本研究では患者さんの数を増やして、PGT-Aを実施することによる妊娠成功率や流産率を調査しています。

医学的な検証が主な目的となるため、限られた施設でしか実施できません。

<事前研究の結果 (Sato, A et al. Hum Reprod. 34(12) P42340-48, 2019より抜粋し作成) >



移植当たり約7割が妊娠



移植できた患者は約6割



患者さん一人当たりが出産する確率には差はありませんでした。

③「PGT-A」に参加するには

- A) 体外受精・胚移植を実施中で、**直近2回の胚移植で2回とも臨床的妊娠^{※1}が成立していない方**
- B) 過去の妊娠で、**臨床的流産^{※2}を2回以上反復し、流産時の臨床情報が得られている方**
- C) ご夫婦のいずれかに、生殖に影響する染色体の構造異常をみとめる方

(※1: 胎嚢(赤ちゃんの入っている袋)が確認できたものをいいます。 ※2: 胎嚢が確認できた後の流産をいいます。)

上記の条件に1つでも当てはまる方が対象です。ただし、医学的な判断でご参加いただけないこともあります。また、臨床研究にご参加をお考えの方は、必ず事前にご夫婦でカウンセリングを受けていただく必要があります。詳しくは、担当医にご相談ください。